

平成 2 7 年度工学部・工学研究科自己点検評価書

項 目	取組内容（成果、課題など）	根拠資料	工学部・工学研究科の取り組みを示すポンチ絵（公表用 1 枚）
基準 4 学生の受入 4－1 入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）が明確に定められ、それに沿って、適切な学生の受入が実施されていること。 4－2 実入学者数が入学定員と比較して適正な数となっていること。	- 入学者受入方針を工学部案内パンフレットやプレゼンテーション資料に組み入れている。 - 平成 25 年度の 4 学科への改組時に、前期日程と後期日程の募集人員割合を 7:3 から 5:5 へ変更し、平成 26 年度から個別試験に英語を導入した。その結果、平成 27 年度実施（平成 28 年度入試）の志願者数は、若干減少したが、ほぼ横ばいである。入学者の入学後の成績等追跡調査を踏まえ、募集人員の再検討をした結果、平成 2 9 年度入試から推薦入試の募集人員の枠を変更することとした。 - 平成 27 年度入試は入学定員の 1.03 倍、平成 28 年度入試は入学定員の 1.04 倍で適正な数である。 - 工学研究科の入学者数は、博士前期課程で平成 27 年度入試が入学定員の 1.16 倍、平成 28 年度入試が入学定員の 1.15 倍で適正な数である。博士後期課程の平成 28 年度入試は入学定員の 0.37 倍であるが、更に幅広い人材を確保するため秋季入学で外国人留学生の受入れ増進等検討している。	- 志願者数、入学者数のグラフ（資料 1，資料 2） - 入試結果（資料 1，資料 2）	
基準 5 教育内容及び方法 5－2 教育課程を展開するにふさわしい授業形態、学習指導法等が整備されていること。（学士課程） 5－5 教育課程を展開するにふさわしい授業形態、学習指導法等（研究・論文指導を含む。）が整備されていること。（大学院課程）	- デザイン思考ワークショップ形式の講義を開講した。「技術表現法：学部 2 年生全員必修」現在設置検討中の新研究科（修士課程）においても、デザイン思考教育カリキュラムを計画している。 - 学部専属の英語教員を採用し、その教員による専門分野ごとに適した英語科目を実施した。 - 海外を含めたインターシップを積極的に推進させた。（学部生 27 名、大学院生 89 名） - グローバル化に向けて短期留学制度を充実させた。（短期留学 33 名）	- 時間割（資料 3） - インターシップ実績一覧（資料 4） - 短期留学実績（資料 5）	
基準 6 学習成果 6－1 教育の目的や養成しようとする人材像に照らして、学生が身に付けるべき知識・技能・態度等について、学習成果が上がっていること。 6－2 卒業（修了）後の進路状況等から判断して、学習成果が上がっていること。	学習成果の向上に繋がる取組として、以下を実施した。 - 授業評価アンケートを実施し、学生の学習時間、学習態度を把握し、その集計結果を G グループで開示した。 - 工学部卒業生の約 60%が博士前期課程へ進学した。博士前期課程の修了後の進路状況について、建設業・製造業等で約 8 割を占めている。また、OB, OG 等による求人活動が活発に行われ、社会が求める人材を輩出している。	- 授業評価アンケートの集計結果（資料 6，資料 7） - 進路と就職先（資料 8）	
基準 8 教育の内部質保証システム 8－1 教育の状況について点検・評価し、その結果に基づいて教育の質の改善・向上を図るための体制が整備され、機能していること。 8－2 教員、教育支援者及び教育補助者に対する研修等、教育の質の改善・向上を図るための取組が適切に行われ、機能していること。	教育の質の改善に繋がる取組として、以下を実施した。 - リフレクションペーパーを教務委員会で開示し、全教員が授業改善の工夫を共有した。 - 卒業（修了）時の置き手紙から、在学時に感じた学生の意見・提案を把握し、質の改善・向上を図っている。 - 平成 27 年 4 月 1 日と平成 28 年 1 月 13 日にワークショップに関する F D を、平成 27 年 7 月 29 日に学科改組後の入学生の成績調査の F D を開催した。	- リフレクションペーパー（資料 9） - 置き手紙の集計結果（資料 1 0，資料 1 1） - FD 研修会一覧（資料 1 2）	

工学部・工学研究科の取り組み

